平成３１年２月　埼玉県北方領土教育者会議

北方領土ワークシート③

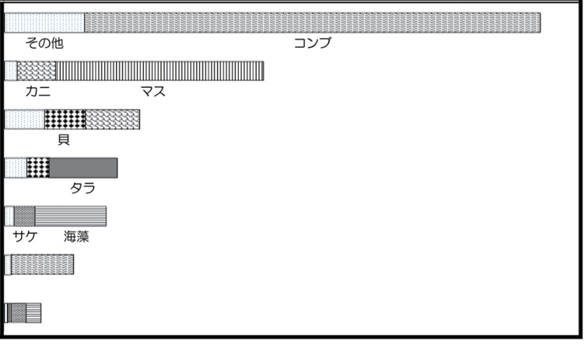
高等学校

年　　組　　番　氏名

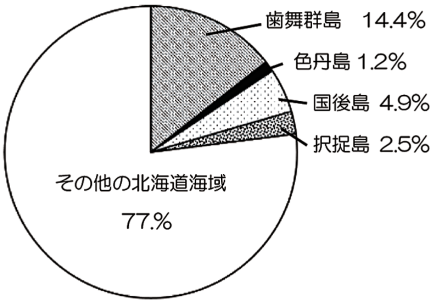
○次は、北海道町村別漁獲高順位を表した表と、北海道地方全体の水揚高を表した円グラフです。資料を見て、北方領土の水産業の特徴をまとめよう。

北海道町村別漁獲高順位（昭和１３年）

順位	町村名	漁獲高（万円）	内訳
１位	歯舞村	２９４．２	その他　コンブ
６位	蘂取村（択捉）	１４２．３	カニ　マス
１９位	泊村（国後）	７４．０	貝
２６位	色丹村（色丹）	６２．５	タラ
３３位	紗那村（択捉）	５６．５	サケ　海藻
５４位	留夜別村（国後）	３８．４	
７８位	留別村（択捉）	２０．５	



北海道地方全体の水揚高（昭和１５年頃）



○考察　北方領土の水産業にはどのような特徴があるか、資料をもとにまとめよう

北方領土の産業と埼玉県

深谷市稲荷町で海産物を商っていた永徳屋商店は、大正から昭和初期にかけて、北海道や北方領土の海産物を大量に仕入れ、中部地方から関東及び東北地方にまで、広く売りさばいていました。

主な海産物は、さけやますを新巻にしたものですが、そのほかにみがきにしんや酢だこなども扱いました。買いつけには択捉島まで行ったそうですが、販売に関しては函館水産販売会社をとおして行っていました。永徳屋商店の買いつけは、北海道の海産物の相場が変動したほど多かったといわれ、多いときは、貨車全車両に積み込んで来たとのことです。

永徳屋商店を経営していた安部彦平は地域経済の発展に力を入れ、「深谷ねぎ」の名付け親であると言われています。のちに深谷市初代市長を務めました。